

プロシーディング原稿作成規定（一般口演）

1. 内 容

他の学会などで未発表のものに限ります。また、発表者および共同研究者とも、学会員（動臨研会員）または、臨時会員（年次大会のみの会員）である者に限ります。

2. 原稿の提出様式

特に指定はありません。入力したCDなどに使用ソフト名を記入し、プリントしたものと一緒に同封して送付して下さい。図・表・写真はまとめて原稿の最後に付け、写真はプリントまたはデーターにして提出して下さい（CDなどの返却はできません）。E-mailでも受付します。

3. 連絡先（原稿校正用）

原稿の校正は、E-mailもしくはFAXにて行います。

原稿中に校正用として、校正者の電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを必ず記入して下さい。

4. 字 数

刷り上がり5ページ以内とし、字数は本文7,000～8,000字前後、要約、写真、図表、文献などは字数に含まれるものとします。この場合、写真、図表は各々1枚につき約300字程度、要約は2倍の文字数と計算してください。演題名、演者名、共同研究者名、所属機関、住所は字数に含まれませんが、共同研究者が多いときは本文の字数が減ります。

5. 演者名および共同研究者名

演者名は最初に書き、そのあとに共同研究者名を続けて下さい。また、演者名、共同研究者名には、すべてローマ字で読みを付けて下さい。

例) Yoshihisa YAMANE, Kazuaki TAKASHIMA

また、各人の所属機関を表す目的でそれぞれの名前のおとに、1) 2) 3) の番号をつけ、改めて番号ごとに所属機関名、郵便番号、所在地の住所、連絡先を書き記して下さい。

例) ¹⁾ (公財) 動物臨床医学研究所：〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋 214-10

TEL：0858-26-0851 FAX：0858-26-2158 E-mail：dorinken@apionet.or.jp

6. 原稿の記述形式

「動物臨床医学」の形式に準じていますが、原則として以下のように記述して下さい。

- 1) 演題名：発表内容を適切に表わす題とし、英題も記載して下さい。なお、「～について」、「～に関して」などは付けしないで下さい。
- 2) 要約：必ず300字程度にまとめて下さい。
- 3) キーワード：3語まで記載して下さい。
- 4) 本文：「はじめに」、「材料および方法」、「成績（結果）」、「考察」、「参考文献」の順に記述して下さい。

プロシーディング原稿作成規定（一般口演）

本文中の表記は下記に従って下さい。

- ①**症例**：動物種（品種）、性別（雄、雌）、年齢（歳）、体重（kg）の順に記述して下さい。なお、品種名は略さず、正式名を続けて記載し、去勢している場合は雄（去勢済）、避妊している場合は雌（避妊済）と記述して下さい。各種検査所見や治療経過もこの中で記述して下さい。
- ②**血液検査項目名および単位**：RBC($\times 10^6/\mu\text{l}$)、Hb(g/dl)、Ht/PCV(%), MCV(fl), MCHC(%), MCH(pg), Ret(%), Plat($\times 10^3/\mu\text{l}$)、WBC(μl)、Band-N($/\mu\text{l}$)、Seg-N($/\mu\text{l}$)、Lym(μl)、Mon($/\mu\text{l}$)、Eos($/\mu\text{l}$)、Bas($/\mu\text{l}$)、TP(g/dl)、Alb(g/dl)、Glob(g/dl)、ALT(U/l)、AST(U/l)、ALP(U/l)、GGT(U/l)、TBil(mg /dl)、TCho(mg /dl)、TG(mg /dl)、Glu(mg /dl)、Amy(U/l)、Lip(U/l)、BUN(mg /dl)、Cre(mg /dl)、Ca(mg /dl)、P(mg /dl)、Na(mmol/l)、K(mmol/l)、Cl(mmol/l)、Fe($\mu\text{g}/\text{dl}$)、TIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$)、UIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$)、LDH(U/l)、CPK/CK(U/l)、Cortisol($\mu\text{g}/\text{dl}$)、 T_4 ($\mu\text{g}/\text{dl}$)、 fT_4 (pmol/l or ng /dl)、CRP(mg /dl)
- ③**度量行衡の単位および略語**：%、m、cm、mm、 μm 、nm、pm、 cm^2 、l、ml、 μl 、kg、g、mg、 μg 、ng、hr、min、sec、msec、rpm、Hz、cpm、dpm、ppm、 $^{\circ}\text{C}$ 、cal、Kcal、lux、LD
病名や手術名など略語を使用する際は、日本語を記入しその後略語のみとして下さい。
例) 心室中隔欠損症 (VSD)
- ④**人および一般的な動物（犬、猫など）の表記**：漢字で記入してください。
- ⑤**図（写真）表**：各図表には必ず番号および題名をつけて下さい。また、本文中にもカッコ書き（例：図1）で挿入して下さい。写真も入れられますので、jpg 画像などでお送り下さい。
- ⑥**参考文献**：本文中の引用箇所参考文献番号を記入してください（例：[1]）。また、本文に文献番号を記入しない場合には、各参考文献には番号ではなく「・」を入れて下さい。文献の記載方法は下記に従ってください。
 - ◆雑誌の場合：著者名、題名、雑誌名、巻、ページ（発行年）
 - ◆単行本の場合：著者名、書名、編集者名、版、ページ、発行所、発行地（発行年）
 - 1) Fingland RB, Bonagura JD, Myer CW : Pulmonic stenosis in the dog : 29 cases (1975-1984). *J Am Vet Med Assoc*, 189, 218-226 (1986)
 - 2) Charies C, Sharron LM (小野憲一郎 訳) : カルシウム代謝と副甲状腺疾患. *Vet Clin North Am* (日本語版), 7, 77-104, 学窓社, 東京 (1975)
 - ・清水美希, 田中綾, 星克一郎, 他 : 僧帽弁閉鎖不全症に併発した左心房破裂に外科的修復術を行った犬の1例. *動物臨床医学*, 12, 105-108 (2003)
 - ・高島一昭, 曾田藍子, 田中綾, 山根義久 : 生体弁を用いた犬の僧帽弁全置換術に対する検討. 第30回動物臨床医学会年次大会プロシーディング, No.2, 93-94 (2009)

7. 発表日時

発表日時の指示は受け付けません。しかし、遠隔地からの出席で飛行機などの都合で不都合もしくは希望の時間帯があれば、必ず演題申し込み時に事務局へ連絡してください（善処致します）。

8. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、全て「動物臨床医学会」に帰属します。

プロシーディング原稿作成規定（症例検討、ポスターセッション）

1. 内 容

一般の症例報告はもちろんのこと、統計的分類調査などを含みます（オリジナリティは問いません）。また、原因不明でも臨床例として貴重と思われるものや、中途の各種検査が不備なものでも結果が明確であれば可能です。

2. 原稿の提出様式

特に指定はありません。入力したCDなどに使用ソフト名を記入し、プリントしたものと一緒に同封して送付して下さい。図・表・写真はまとめて原稿の最後に付け、写真はプリントまたはデーターにして提出して下さい（CDなどの返却はできません）。E-mailでも受付します。

3. 連絡先（原稿校正用）

原稿の校正は、E-mailもしくはFAXにて行います。

原稿中に校正用として、校正者の電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを必ず記入して下さい。

4. 字 数

刷り上がり2ページ以内とし、字数は本文3,500字前後、要約、写真、図表、文献などは字数に含まれるものとします。この場合、写真、図表は各々1枚につき約300字程度、要約は2倍の文字数と計算して下さい。演題名、演者名、共同研究者名、所属機関、住所は字数に含まれませんが、共同研究者が多いときは本文の字数が減ります。字数オーバーは、校正時に削除となりますので、提出前に必ず文字数をご確認下さい。

5. 演者名および共同研究者名

演者名は最初に書き、そのあとに共同研究者名を続けて下さい。また、演者名、共同研究者名には、すべてローマ字で読みを付けて下さい。

例) Yoshihisa YAMANE, Kazuaki TAKASHIMA

また、各人の所属機関を表す目的でそれぞれの名前のあとに、1) 2) 3) の番号をつけ、改めて番号ごとに所属機関名、郵便番号、所在地の住所、連絡先を書き記して下さい。

例) ¹⁾ (公財) 動物臨床医学研究所：〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋214-10

TEL：0858-26-0851 FAX：0858-26-2158 E-mail：dorinken@apionet.or.jp

6. 原稿の記述様式

他の先生の診療の参考となるように、治療内容や経過がわかりやすいように心がけて下さい。

「動物臨床医学」の形式に準じていますが、原則として以下のように記述してください。

- 1) **演題名**：発表内容を適切に表わす題とし、英題も記載して下さい。なお、「～について」、「～に関して」などは付けなくて下さい。
- 2) **要約**：必ず300字程度にまとめて下さい。
- 3) **キーワード**：3語まで記載して下さい。

プロシーディング原稿作成規定（症例検討、ポスターセッション）

4) 本文：「はじめに」、「症例」、「考察」、「参考文献」の順に記述して下さい。

本文中の表記は下記に従って下さい。

①**症例**：動物種（品種）、性別（雄、雌）、年齢（歳）、体重（kg）の順に記述して下さい。なお、品種名は略さず、正式名を続けて記載し、去勢している場合は雄（去勢済）、避妊している場合は雌（避妊済）と記述して下さい。各種検査所見や治療経過もこの中で記述して下さい。

②**血液検査項目名および単位**：RBC($\times 10^6/\mu\text{l}$)、Hb(g/dl)、Ht/PCV(%), MCV(fl), MCHC(%), MCH(pg), Ret(%), Plat($\times 10^3/\mu\text{l}$)、WBC(μl)、Band-N($/\mu\text{l}$)、Seg-N($/\mu\text{l}$)、Lym(μl)、Mon($/\mu\text{l}$)、Eos($/\mu\text{l}$)、Bas($/\mu\text{l}$)、TP(g/dl)、Alb(g/dl)、Glob(g/dl)、ALT(U/l)、AST(U/l)、ALP(U/l)、GGT(U/l)、TBil(mg /dl)、TCho(mg /dl)、TG(mg /dl)、Glu(mg /dl)、Amy(U/l)、Lip(U/l)、BUN(mg /dl)、Cre(mg /dl)、Ca(mg /dl)、P(mg /dl)、Na(mmol/l)、K(mmol/l)、Cl(mmol/l)、Fe($\mu\text{g}/\text{dl}$)、TIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$)、UIBC($\mu\text{g}/\text{dl}$)、LDH(U/l)、CPK/CK(U/l)、Cortisol($\mu\text{g}/\text{dl}$)、 T_4 ($\mu\text{g}/\text{dl}$)、 fT_4 (pmol/l or ng /dl)、CRP(mg /dl)

③**度量行衡の単位および略語**：%、m、cm、mm、 μm 、nm、pm、 cm^2 、l、ml、 μl 、kg、g、mg、 μg 、ng、hr、min、sec、msec、rpm、Hz、cpm、dpm、ppm、 $^{\circ}\text{C}$ 、cal、Kcal、lux、LD
病名や手術名など略語を使用する際は、日本語（略語）を記入しその後略語のみとして下さい。
例) 心室中隔欠損症（VSD）

④**人および一般的な動物（犬、猫など）の表記**：漢字で記入してください。

⑤**図（写真）表**：各図表には必ず番号および題名をつけて下さい。また、本文中にもカッコ書きで挿入して下さい（例：図1）。写真も入れられますので、jpg 画像などでお送り下さい。

⑥**参考文献**：本文中の引用箇所に参考文献番号を記入してください（例：[1]）。また、本文に文献番号を記入しない場合には、各参考文献には番号ではなく「・」を入れて下さい。文献の記載方法は下記に従ってください。

◆雑誌の場合：著者名、題名、雑誌名、巻、ページ（発行年）

◆単行本の場合：著者名、書名、編集者名、版、ページ、発行所、発行地（発行年）

1) Fingland RB, Bonagura JD, Myer CW : Pulmonic stenosis in the dog : 29 cases (1975-1984). *J Am Vet Med Assoc*, 189, 218-226 (1986)

2) Charies C, Sharron LM (小野憲一郎 訳) : カルシウム代謝と副甲状腺疾患. *Vet Clin North Am* (日本語版), 7, 77-104, 学窓社, 東京 (1975)

・清水美希, 田中綾, 星克一郎, 他 : 僧帽弁閉鎖不全症に併発した左心房破裂に外科的修復術を行った犬の1例. *動物臨床医学*, 12, 105-108 (2003)

・高島一昭, 曾田藍子, 田中綾, 山根義久 : 生体弁を用いた犬の僧帽弁全置換術に対する検討. 第30回動物臨床医学会年次大会プロシーディング, No.2, 93-94 (2009)

7. 発表可能演題数

症例検討は、ひとり2題までの発表とさせていただきます。

8. 発表日時

発表日時の指示は受け付けません。しかし、遠隔地からの出席で飛行機などの都合で不都合もしくは希望の時間帯があれば、必ず演題申し込み時に事務局へ連絡してください（善処致します）。

9. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、全て「動物臨床医学会」に帰属します。